

令和3年度第2回「四日市羽津医療センター地域協議会」事蹟書

【日時】 令和4年1月11日（火）

【場所】 書面開催

【出席者】 中嶋一樹（四日市医師会副会長）、柴田英治（四日市看護医療大学 学長）、河合信哉（四日市市保健所長）、清水則康（四日市市北消防署署長）、中村克義（四日市市自治会連合会会長）、内田寛（羽津地区連合自治会会長）、羽場誓司（海蔵地区連合自治会会長）、山内満（橋北地区連合自治会会長）、渡辺文一（富田地区連合自治会会長）、藤田信男（富洲原地区連合自治会会長）、渡邊重信（大矢知地区連合自治会会長）、徳山直子（三重県乳腺患者友の会）

以下 当院スタッフ 住田安弘（院長）、渥美伸一郎（副院長）、北川達士（副院長）、高司智史（副院長）澤田豪人（事務部長）、中島範子（看護部長）、中島佐知子（地域連携室看護師長）、東川亜依子（訪問看護ステーション副看護師長）、森田幹治（総務企画課長）、越川健太郎（医事課長）、位田浩（健康管理センター管理課長）、中川佳代（介護老人保健施設管理係長）、酒井克嗣（経営企画係長）

【内容】

（病院より）

- ・ 令和3年度病院現況報告（4月～9月）
- ・ 令和3年度健康管理センター現況報告（4月～9月）
- ・ 令和3年度介護老人保健施設現況報告（4月～9月）
- ・ 令和3年度訪問看護ステーション現況報告（4月～9月）

【意見等】

（学識経験者委員より）

意見： 新型コロナウイルス感染症2年目の令和3年度の第4波、第5波の襲来がありました。困難の中でも概ね堅調な成果があがっていると思います。

病院はコロナ感染疑いの検査及び入院で大きな貢献をされました。

健康管理センターは一時中止となった市町のがん検診、胃カメラ枠拡大に伴う件数増加、ユニークな膀胱がん検診取組みなどで健闘されています。

附属老人保健施設では多方面との連携により、通所者の増加、訪問給食での見守りに成果が見られました。ケアマネジャーの補充を期待します。

同様に訪問看護ステーションも職員の方の退職の影響が出ているようです。別表7、8 該当者の支援は地域の重要な支援であり、地道ながら評価すべき活動ではないかと存じます。

感染の再拡大という厳しい状況ですが、一層の発展を期待しています。

回答： 新型コロナウイルス感染症への対応については、第 5 波の経験を活かし第 6 波に向けた準備を行いました。コロナ患者が増えた際に HCU 病棟を一時的な休止すること、発熱外来への対応を医師が当番制で対応することなどを取り決め、第 6 波の急激な増加に対応することができました。コロナワクチン接種については、医師、看護師、コメディカル、事務が関わり自治体からの依頼に応えることができました。

健康管理センターは、十分な感染対策を行い院内での健診はほぼ例年どおりの受診者数に対応することができました。院外での健診はコロナ感染の影響により日程を変更したりして対応しましたが、会場や日程の調整ができず例年通りの受診数にはなりませんでした。

介護老人保健施設は、感染対策を十分行いクラスターを発生させることなく入所者、通所者の受け入れができました。コロナ感染前の行事が行えないことやしばらくは面会制限を解除することができませんので、今後の感染状況をみながら検討していきます。

訪問看護ステーションは人員の確保を行い対応できるようになりました。

今後も行政や近隣医療機関と連携しながら新型コロナウイルス感染症への対応とコロナ後に向けての取り組みを行っていきます。

(地域代表委員より)

意見： 救急車受入れ状態は理解するが R1~R3 は月平均 100 人ほど横ばいである。受入れ能力として余裕はあるのか。救急、救命としてどこまで治療にあたるのか。

回答： ①について

救急車の受入台数は年間 1000 台以上を目標にしており令和 3 年度は目標を達成することができました。受入能力については、当院は脳外科がないことから頭部の外傷等の患者はお断りすることになりますが、救急を担当する医師が診察できる範囲で受け入れを行っており、現在のマンパワーに相当する受け入れ数であると認識しています。

意見： 8 月は市全体で 2000 件コロナの新規感染者があったのに、224 件と少ない方ではないか。受入れ体制としては何人程可能なのか。

回答： 8 月時点でのコロナ感染者の受入病床数は 11 床でした。9 月になり 12 床の受入体制になりました。12 月に国からの要請により最大 14 床受け入れる体制を整備しています。コロナの入院患者については、患者さんの重症度を見ながら県と連携し受け入れ人数を調整しています。対応可能な限り受け入れを行っています。

意見： LAMP 法、高額（¥16,000）で保険適用外であるが、出張や海外渡航者への推ししょう PR をやっているのか。

回答： 近隣企業からの依頼もあり、個人で希望される方への検査は健康管理センターにて行っています。検査を専門とする機関や団体があることと、当院で対応する時間帯の制約がありますので積極的な広報活動は行っていませんが、ご要望にはお応えしています。

意見 : 退所先対応について近隣には“楽々館”や“YMCA”があるが、積極的な対応は図られているのか。特養、ヘルパー、デイサービス受入れ対応について(退所者の) いかになされているのか。

回答 : 在宅復帰される際には、居宅介護支援事業者のケアマネジャーに連絡し、ショートステイやデイサービスをご利用しながらご自宅で過ごしていただけるようにしています。地域のショートステイ事業所やデイサービス事業所は積極的に利用していただいています。

(患者代表委員より)

意見 : 長引くコロナ禍で日々の緊張をお察し申し上げます。

やはりいろいろな数字がコロナの波の情勢と連動していることが見てとれます。わかりやすい資料をありがとうございます。ワクチンに対する懸念が多様な角度からのデータにより払拭されつつある中、発症の数の多さに驚くばかりです。医療職の皆様のお仕事が軽減されることを願っています。

回答 : コロナ禍が続いていますが、当院で大規模なクラスターが起きることなく医療が提供できています。感染が拡大しないように早目に情報収集を行い、就業の制限や職員等への検査など厳しい条件を設けて取り組んでいます。職員やその家族に負担となる面もありますが、地域の医療を継続していく上で感染対策を十分に行うことが必要であること理解してもらっています。現在第 6 波の中でなかなか低下傾向にありませんが、油断することなく感染防止に努めていきます。